

デッドラインヒーローズRPG:シナリオ

## 「ヒロイン二人で撮影を終えるまで帰れないスタジオ」

作:海斗

※登場するヴィラン組織※

地球侵略サークル

### 〔はじめに〕

このシナリオはフィクションであり、実在の人物や団体とは関係ありません。

### 〔事前情報〕

PL:2名

予想時間:3~4時間

リトライ:3

初期グリット:

チャレンジ:1

クエリー:1

バトル:4

リーサル:1 ※

想定経験点:点

使用ルールブック:学園マッドネス

※:リーサルとは「ブラックジャケットRPG」で追加されたイベントの種類です。チャレンジ判定と似ていますが、判定をやり直すことが出来ません。

### 〔シナリオ概要〕

女性ヒーロー二人で参加することが必須条件のシナリオ。

地球侵略サークルの活動が行われていると噂のあるスタジオに調査に向かった二人の女性ヒーロー。

そのスタジオの責任者に話を聞きに行ったところでヒーロー達は特殊な空間に飛ばされてしまう。

そこで気が付いたヒーロー達の前にあったのは一冊の台本。

その台本に目を通せば、そこに書かれていたのは

「製作チーム・地球侵略サークル、総監督・西クワトロ、撮影協力・二八六スタジオの皆さん」の文字、そして大きく書かれた「ダブルヒロインVSジャアキング(仮)」というタイトル。

果たしてヒーロー達はこの空間から抜け出すことが出来るのか—————。

## 〔GM向け情報〕

このシナリオは西クワトロをメインに、地球侵略サークルの幹部4名のわちゃわちゃした掛け合いを見せることを目的とした、ノリのきついシナリオです。

ロールプレイが難しいと思う場合は、幕間と書かれている部分を飛ばしてもらっても構いません。

## 〔特殊ルール〕

このシナリオでは、PC同士のコミュイベントを推奨しており、エンパシーは関係表によってそれぞれスタートするものとして、PC1→PC2、PC2→PC1それぞれのを管理することとする(PC1→PC2が中立、PC2→PC1が好意といったような状況が成立するということ)。

また、コミュイベントでのエンパシーの変化を好意側、敵対側に変化させてもよいものとする。(エンパシーを変化させないことを選んでもよい)

愛情から変化させる場合、変化先は自由なエンパシーを選択すること。エンパシーの変化によってボスの状態も変化するが、難易度が激しく難しくなることは無い。ただし、チャレンジの成否による難易度の変化は大きくなっているので注意するべし。

## 〔エントリー〕

### ◆条件◆

#### ・女性であること

あなた達は地球侵略サークルが活動しているスタジオの噂を聞きつけ、その真偽を確かめるために出動した女性ヒーローである。

関係性はあらかじめ相談して決めておくこと。下記の関係表を使ってもよい。

〔関係表: ロールorチョイス(1D6)〕

※この関係表を使った場合、()内のエンパシーからどれかを選ぶ。

- 1: 見知らぬ相手(中立)
- 2: 知り合い(陰悪～友好)
- 3: 相棒(友好～好意)
- 4: ライバル(陰悪～敵対)

5: 姉妹(敵対～好意)

6: 恋人(好意or愛情)

## [シナリオ本文]

### 導入フェイズ

#### [イベント①: 幕間・プロローグ]

登場キャラクター:—

場所:—

分類:—

(状況①)

ここはとある秘密基地……もといスタジオのとある一室。  
その場に4人の男性型宇宙人が集まり会議を行っていた。

西クワトロ(以下クワトロ)

「ヒウナーム殿、首尾はいか程にござるか？」

オンアーン・ヒウナーム(以下ヒウナーム)

「ふっ、仕掛けは上々。我が部下達を通じて流した噂は無事ターゲットに伝わったようだ」

ミケランジェロ・ドナテルト(以下ドナテルト)

「流石はヒウナーム氏、人を動かすことに関してはピカイチでつな！」

ヒウナーム

「ふっふっふ、そうだろうドナテロ君。オボロ君も、このスタジオを抑えてもらえて助かったぞ」

龍鳳院オボロ(以下オボロ)

「ほかならぬ西クワトロの頼みだ、盟友であるお前たちの為なら俺はいつでも力を貸してやるとも」

クワトロ

「うむ、皆協力感謝するでござる。全ては今日、拙者の目的を果たすため。二人の女子ヒーローが手と手を取り合って巨悪をうちたおすドラマ、『ダブルヒロインVSジャアキング(仮)』を撮影するため！！」

「こうして準備を重ねた結果を出すときにござる！！ いざネオ・カマクラ！いざサイバーホンノウジ！！」

三人

「おおー！！(パチパチパチパチ)」

激しく盛り上がる4人の男たち。その決意を表す声が部屋の中に強く響いていた。

(解説①)

地球侵略サークル側を描写する幕間のイベントだ。基本的にココロスちゃんのために頑張る四人の幹部メンバーだが、彼らはそれぞれ思い思いの活動をすることもある。

今回は西クワトロ発案の特撮に他の三人が協力する形で集まっているようだ。ちなみに、特撮メインのメンバーは幹部級の中にはいない。もしかしたらヒーローが身近なDLHの世界では特撮というものは存在せず、ドラマとして作られているのかもしれない。

(エンドチェック)

- 地球侵略サークルの四人の幹部が悪だくみしている様子を描写した。
- 主体となっているのが西クワトロであることを示した。

## [イベント②:ヒーロー・プロローグ]

登場キャラクター:全員

場所:—

分類:導入イベント

(状況①)

君たち二人のヒーローは、なんらかのルートで「二六八スタジオ」という場所に地球侵略サークルが集まってなにかしらの活動をしているという話を耳にした。そしてその真偽を確かめるべく、行動を開始し、スタジオ前で君たちは出会うことになる。

互いにこのスタジオの調査が目的だと確かめた君たちは内部へと侵入する。どうやらスタジオ自体には客はいないもののスタッフはいるようで、まずは受付の人に話を通すことになる。

受付の人に話を通し、責任者が直接話をしたいという言葉聞いて、案内されるままにスタジオ内を移動する最中、突如空間が歪み、君たちはテーブルが一つ置かれた部屋へと転移させられてしまうのであった。

#### (解説①)

PC側の導入イベントだ。このシーンでは、PC達が合流し、スタジオに突入していく。最初に決めた関係性によっては、二人が合流する描写をせずに最初から一緒に行動することになる。

この導入時点でスタジオ自体がヴィランに悪用されていることは伝わるだろう。実際、このスタジオのスタッフはオボロの手によって洗脳されており、ある程度の意識は残しつつ、彼らのために働かなくてはと思いながら行動している。

彼らの救出も目的となるため、導入フェイズが終わった後にそのことを伝えておくとスムーズになるかもしれない。

#### (エンドチェック)

- PCたちが互いのことを認識し、お互いの目的を把握した。
- 責任者の場所に向かう途中、PC達が転移させられた。
- イベント終了時にGMから、入り口で見かけたスタッフは間違いなく現地の人間だったことを伝える。

## 展開フェイズ

### [イベント③:ダブルヒロインVSジャアキング(仮)]

登場キャラクター:全員

場所:—

分類:クエリー

#### (状況①)

強制的に転移させられたことに君たちが驚き、その部屋を調べると、辺りには扉がいくつかあり、それぞれ「衣装室」「休憩室(飲食はここで)」「出口じゃないよ」「撮影ブース(準備ができたなら来てね)」と、書かれていることが分かる。

「衣装室」と「休憩室」に関しては書かれているままで様々なものが用意されており、「出口じゃないよ」と書かれた扉に入ると、またこの部屋に戻ってきてしまう。

「撮影ブース」はまだ鍵がかかっていて開かない。

中央のテーブルを見れば、そこには2冊の台本が用意されている。

表と裏を確認すれば、そこには「製作チーム・地球侵略サークル、総監督・西クワトロ、撮影協力・二八六スタジオの皆さん」の文字、そして大きく「ダブルヒロインVSジャアキング(仮)」というタイトルが書かれていた。

台本に目を通せば、そこにはそこはかたなくねっとりとした熱意を感じる、二人のヒロインが協力して悪役を吹っ飛ばすシナリオが書かれており、それを確認したところで「撮影ブース」の方から鍵が開く音が聞こえてくる。

君たちはこれからどう動くかを相談しつつ、このシナリオに乗かってやるか、それともシナリオなんて知ったこっちゃないと自由にやるか選択しなければならない。

どちらにせよ、相談と準備が終われば、君たちは撮影ブースに向かうことになるだろう。

#### (解説①)

PC達は西クワトロ達が用意した準備ブースへと飛ばされてしまう。

周囲の扉にはそのままの物資が用意されており、コミュイベントの一助として使ってもらえばやりやすいかもしれない。

このドラマの台本自体には無駄に詳細に書かれたヒロインの絡みまで書いており、濡れ場に当たるものはないものの、わざわざ言われてやりたいと思わないようなものまで書かれていることだろう。

それに忌避感を覚えてもらうもよし、面白いと思ってもらうもよし。

どう選択したとしても、PCたちはヴィランである地球侵略サークルを打倒し、このスタジオを開放する必要があるのだから。

どうしてもPC達が決断できない場合は次の幕間イベントを開始するか、幕間イベントの解説をぶっちゃけるとよい。

#### (エンドチェック)

- 台本を確認してその内容に従うかどうかを決めた。
- グリットを1点増やした。
- GMからコミュイベントをやっていってもいいと伝えた。

[イベント④:幕間・ヒーロー達を見て]

登場キャラクター:—

場所:—

分類:—

(状況①)

再び視点はとある一室へ向かう。

西クワトロ達は今まさに準備ブースで話し合っているヒーロー達の姿を見て、彼らもまた話しあっていた。

クワトロ

「うむ、目標は無事台本を確認したにござるな」

オボロ

「ふっ、中々綺麗な嬢ちゃんたちじゃないか。西クワトロの計画でなければ俺のハーレムに引き入れたいところだな」

ドナテルト

「ちょっとちょっとオボロ氏、今回は手をだしちゃだめですよ！」

オボロ

「分かっている、それだけ彼女たちが魅力的だということさ」

クワトロ

「うむうむ、それはもちろん。拙者が目を付け、主役としたいと思った女子たちでござるからな。それに、オボロ殿にはまた後で出番があるにござる。そこまでしっかりと英気を養ってもらわねば」

オボロ

「そういうことだミケランジェロ・ドナテルト。今回は舞台の一人としてしっかりと振る舞わせてもらおう」

ドナテルト

「それならいいでつけど……うーん……」

ヒュナーム

「はっはっは、わかるぞドナテロ君、君は今回の撮影が台本通りにいくか不安なのだろう？ だが安心したまえ、西クワトロ君にはしっかりと考えがあるようだからな！」

クワトロ

「そうにござる、ヒュナーム殿。今回の撮影、大筋である部分はヒーローである彼女たちは無視できないようになっているでござるからな。その点に於いては抜かりなしにござる」

オボロ

「それに、役者のアドリブもまた撮影にはつきものだ。安心しろミケランジェロ・ドナテルト、反発もまた想定内、だろう？ 西クワトロ」

ドナテルト

「おおー、三人ともベテランの風格を感じるでつな！ ニヒルな笑みも悪役っぽいでつ！」

クワトロ

「そうにござろう？ 今回、拙者たちは二人のきゃわゆいヒロインに倒されるのが役目！ それに見合う悪役を演じるのが大事にござるからな！！ ファァファァファァ！」

そんな高笑いが響く室内、彼らはこれからの展開に大いに期待を寄せるのであった。

(解説①)

再びの幕間。西クワトロたちはPC達の様子をみながら不敵に笑いあう。

このイベントはPC達が悩んでいるのであれば決断する前に始めてしまい、多少めっちゃくちゃするのもヴィランの、またシナリオの想定内だから大丈夫だと伝えてしまっ

て構わない。  
ちなみに関係性がライバル以外だった場合、エンパシーが敵対側に向かうたびに西クワトロから覇気がなくなっていく。それでも彼はネバーギブアップの精神で撮影を

決行するだろう。  
逆にエンパシーが好意側に向かうたびに西クワトロは覇気を増していく。

GM向けにぶっちゃけると西クワトロのサニティが変動したり復活パワーの仕様が変動することになる。

詳細は敵データと決戦イベントを参照してほしい。

(エンドチェック)

- オボロがPC達のことを評価した。
- 西クワトロが大筋以外はアドリブで変わっていくと想定していることを暴露した。

## [イベント⑤:現れた驚異、その名はジャアキング]

登場キャラクター:全員

場所:—

分類:チャレンジ

(状況①)

撮影ブースを扉を開け、その先に向かう君たち、そこには平和な街中の景色が用意されており、エキストラとして配役されているスタッフたちが平和な日常を演じながら行き交っていた。

そんな景色の中を君たちが進んでいくと、道の先のほうから何かが落ちてきたような振動と悲鳴が聞こえてきた！

その悲鳴の元に向かうと、紫色の身体をした巨大な化け物が、上空から振ってきた手下たちにエキストラを襲わしている姿があった！

ジャアキング

「ヴァーハッハ！ 我が名はジャアキング！！ 絶望の国からやってきた、お前たち希望の世界の人間に絶望を与えるものだ！！」

「ゆけい、我がしもべであるワルインダーども！ 手始めにこの場にいるもの達から希望のエネルギーを奪ってしまえー！！」

ワルインダー達

「ワールインダー！！！」

その号令とともにワルインダーはエキストラに襲いかかり、エキストラの人たちからキラキラとしたエネルギーを奪おうとする！

その様子を見た君たちが止めに走ったところで最初のチャレンジイベントが始まる！

(解説①)

今回のチャレンジイベントの判定①と②は同時に同じキャラクターが行なうことはできず、判定③はどちらのPCも挑戦する必要がある。

判定①と②が終わった時点でRPが挟まるので、そこで一旦区切りとする。

### 【チャレンジ判定①】

判定①.....白兵、生存、霊能、意志、作戦、交渉

⇒今まさにワルインダーと呼ばれた小さな化け物が人々を襲おうとしている！

とりあえずはこいつらを引き付けなくては！！

## 判定②.....運動、心理、隠密

⇒もう一人のヒーローが化け物を引き付けている間に、こっちはみんなを避難させなくては！

### (状況②)

君たちの奮闘でワルインダーは蹴散らされ、辺りにいた人たちは避難できた。  
君たちは再び合流し、ジャアキングと名乗る化け物に直面する。

### ジャアキング

「何者だ貴様らあ！ 我らの邪魔をしおってえ！！ 我があの絶望の国の王、ジャアキングと知ってのことか！！」

そう啖呵をきるジャアキングに君たちが言葉を返せば、ジャアキングは再び口を開く。

### ジャアキング

「そうか、貴様ら希望の世界のヒーローか！！ ならば、ここで貴様らをやっつけてくれるわあ！！」

ジャアキングはそう叫ぶと、その大きな手を振りかざし君たちに襲い掛かってくる！！

## 【チャレンジ判定②】

判定③.....白兵マイナス20%、射撃マイナス20%、霊能マイナス20%

※他にも、そのヒーローが「属性:攻撃」のパワーに使用する技能であれば使用してもよい。その場合でも、判定の成功率にはマイナス20%の修正が加えられる。

⇒君たちにジャアキングが襲い掛かってくる！こちらを負けてはいられない！ 全力で戦おう！

## 【成功】

ワルインダーに襲われている人々を救出できた。

## 【失敗】

決戦フェイズでのジャアキングのライフが増加する。

※GM向けの開示(ライフ30点から、ライフ50点になる)

### (状況③)

君たちの全力の攻撃を受け、ジャアキングは大きく退く。

## ジャアキング

「ぬう、厄介な奴らめ、仕方がない！ ここは一度引かせてもらうぞ！！」

そう叫んだジャアキングは残ったワルインダーを君たちにぶつけ、その隙にワルインダーが回収した希望のエネルギーを持って上空に作った紫の雲の中に逃げてしまう。ワルインダーを倒し終わったころには、ジャアキングと紫の雲は跡形もなくなっているだろう。

そうして君たちは上空を見送りつつ、人々の元へと向かうのだった。

### (解説③)

最初のチャレンジイベント。ジャアキング登場と最初の対決。

このチャレンジイベントで失敗した場合、ワルインダーに襲われる人が増えてしまい、その分だけ希望のエネルギーが持ち去られてしまう。

メタ的に言うと、その分だけ決戦フェイズのジャアキング改め西クワトロのライフが強化されてしまうのだ。

どちらにせよ、ジャアキングはこのイベントの後引き上げてしまう。

この場では倒すことはできない、いわゆる顔見せイベントだ。

### (エンドチェック)

- ヒーロー達の手によってワルインダーが倒された
- ジャアキングがエキストラから奪った希望のエネルギーを持ち去ってしまった

## [イベント⑥: 幕間・ジャアキングの正体]

登場キャラクター: —

場所: —

分類: —

### (状況①)

ヒーローがジャアキングを退けた直後のこと、とある一室に視点は移る。

そこには暑い空間に閉じ込められていたかのような西クワトロがしてやったりと言わんばかりの顔で戻ってきていた。

## ドナテルト

「西クワトロ氏！ お疲れさまでつ！！ きんきんに冷えたコークでつよ！！」

クワトロ

「かたじけないドナテロ殿。ゴクッゴクッゴクッ……プハーツ！ 生き返ったにござる！！」

ヒウナーム

「西クワトロ君、迫真の演技見事だったぞ！！」

オボロ

「ああ、まさしく悪の体現者そのもの、ジャアキングとは絶望をあらわす巨悪に紛うことはないな」

クワトロ

「くっくっ、そうにござろう！ ヒーロー達も見事な戦いぶりにござった！！ 目の前で体感して思わず熱が入ってしまったにござるな！！」

ドナテルト

「そうでつな！ あの戦う姿、アクションフィギュアとして飾っておきたいくらいでつ！！」

ヒウナーム

「はっはっは、欲望が漏れているぞドナテロ君」

ドナテルト

「おお、これは失敬、デュフ、デュッフ！」

クワトロ

「ふう、それはそれとしてちょっと疲れたにござる。ヒウナーム殿、スタッフの人たちにしばらく休憩だと伝えておいてください」

ヒウナーム

「分かったとも西クワトロ君！ では皆に休憩するよう言い渡してこよう！！」

オボロ

「ふっ、では俺も出演シーンに備えて英気を養うとしよう」

ドナテルト

「行ってらっしゃいでつー」

その言葉とともにヒウナームとオボロは姿を消し、後には西クワトロとドナテルトだけが姿を残していた。

(解説①)

ヒーロー達の前に姿を現したジャアキング。その正体は西クワトロが操縦する自作巨大ロボットなのだった。

ちなみにワルインダーはヒウナームの部下であるアスケラ星人である。

ここで撮影はいったん休憩となり、次のシーンではヒーロー達も休憩をとることになる。

(エンドチェック)

- クワトロがしてやった感を出した。
- オボロとヒウナームが退席した。

[イベント⑦:ヒーローたちの休息]

登場キャラクター:全員

場所:—

分類:クエリー

(状況①)

君たちがジャアキングを退けた後、スタッフたちにオンアーン・ヒウナームが休憩を伝えるに現れた。

ヒウナーム

「やあやあ皆のもの、総監督から休憩の時間の通達だ！再開までゆっくり休んでくれたまえ！」

その言葉を聞いて、近くにいたエキストラたちは皆思い思いに休憩を取り始める。そして彼は君たちにも話しかけてくる。

ヒウナーム

「やあ今回の主役諸君達、君たちも撮影再開までゆっくり休んでくれたまえよ」

「セットの中には飲食店も用意してある、そちらの方も使ってくれて構わないぞ！」

「それと、今のうちに質問したいことがあるならぜひ聞いてくれたまえ、全てを答えられるわけではないが、流れの確認なんかはできるからな！」

と言って、君たちの質問を待つだろう。

-----

## 《質問回答の例》

### Q: 何故このスタジオをアジトとして狙ったのか

A: 「私たち、ひいては西クワトロ君がこのスタジオの作品のファンでね、地球の設備を使うのであれば是が非でもここを使いたいと言ったのだよ」

### Q: スタジオの人たちは無事なのか

A: 「ふむ、無事という定義にもよるが、君たちの心情をおもんばかるのであれば、この撮影が終わった後、私たちはここから手を引くつもりだとも。その時には洗脳も解いて元のように創作活動が続けられるようにするつもりだ！このスタジオにはこれからもよい作品を作っていってもらいたいからな！」

### Q: 今回の目的は何だ

A: 「ふっ、全ては西クワトロ君の熱意に突き動かされたまで、彼の開拓精神と、そして彼の持つラブによるサークル活動。つまりは君たちを主役としたドラマを撮りたいというのが目的だ。なに、我々も地球の創作物を愛する身。制作した作品を悪用などしないと約束しよう」

### Q: ココロスちゃんはどうしたんだ

A: 「ふっ、ココロスちゃんに興味があるのか。いや、当然だとも。できることならこのまま休憩時間が終わるまでココロスちゃんの魅力について語りたいところだが、ちゃんと休憩を取るのも大事だからな、今回はやめておこう。まあ君たちがどうしてもというなら語るのもやぶさかではないがな！とまあ、ココロスちゃんは今回の活動には関わっていない。彼女は今、新たなターゲットを見定めるのに忙しいからな。これでまたココロスちゃんを好きになる同輩が増えると思うと、吾輩の心は感動で破裂してしまいそうだと！ハーハッハッハッ！！！」

「失敬、感情が高ぶりすぎてつい高笑いが出ってしまった」

### Q: 今後の展開について

A: 「ふむ、大筋は台本通りだが、まあそうだな、君たちは西クワトロ君が厳選に厳選を重ね、選出したヒーローだ。であれば、君たちの思うままに行動してくれれば問題ないだろう。この後に待ち受ける大きな障害をぜひうち破ってくれたまえ！！」

### Q: 希望のエナジーってなに？

A: 「設定の話だな？うむ、ジャアキングが人々から回収している希望のエナジーというのは絶望の国の住民が希望の世界と呼んでいるこちらの世界の住民たち、希望を抱いている者が誰しも自然に発生させているエネルギーのことであり、絶望の国の住民達の活動源となっているものだ」

「このエネルギーは希望が叶った時は希望の世界、希望が叶わなかった時は絶望の国に霧散していくのだが、ジャアキング達は希望の世界に赴いて、人々から直接奪ってしまっている」

「希望のエネルギーを無理やりに奪われた人々は次の希望を抱くことが出来なくなり、絶望の国の住民は希望のエネルギーを取り込めば取り込むだけ強くなっていく。このままジャアキングの好きにさせれば、希望の世界の人々は誰も希望を持ってなくなってしまうだろう。とまあ、そういう設定の下にアスケラの科学力で顕在化させているものだが、実際のところあのエネルギーが抜き取られた生き物は、まるで睡眠時間がいつもの半分しか取れなかった時のように元気がなくなってしまう。後遺症が残るようなものではないが、実際に身体を張ってもらっているのは確かだぞ」

Q: 正直気持ち悪いんだけど？

A: 「ふむ、そう言われては傷ついてしまうな。私だから耐えられたが、ドナテロ君や西クワトロ君であれば傷心で何をしでかすかわからないぞ？」

「オボロ君はまた別の意味で受け取るだろうがな。だが、私たちも私たちが自分たちの信念のよりの行動なのだ。気持ち悪いと言われようが何だろうが、譲れないものがここにはある。この地球の作品とその創造者へのリスペクトはあるにはあるが、私たちの情熱の為には止まれないこともままあるものだとも！」

《答えてはいけないこと》

- ・このシナリオのデータの的な情報。
- ・今回のシナリオに関係ない情報。

《質問が無かった場合》

ヒウナーム

「この後の展開、君たちの目の前には強敵が現れる。  
彼に立ち向かうためにしっかりと休息を取っておくといい！」  
と、彼はそう伝えてくる。

-----

そうして、君たちの質問に答えた後、ヒウナームは君たちの活躍を楽しみにしていると告げ、再び姿を消してしまう。

そんなわけで、君たちは彼らから与えられた休憩時間を過ごすことになる。

(解説①)

休憩時間、もとい、シナリオの情報をおさらいするクエリーイベントだ。  
ヒウナームへの質問を通してこの台本に対する没入感を確かめるのがクエリーとなる。

彼を通して、ヒーロー達は今回の状況を再確認することとなる。  
彼は明確な敵対者であろうとも、しっかりと口を開いて対面できるメンタルの持ち主だ(サニティはオボロや西クワトロの方が高い)。

ヒーロー達に嫌な顔をされようが、構わず会話を続けることができるだろう。

この質問の後、ヒーロー達は休憩時間を過ごすことになる。  
周囲では他のスタッフも思い思いに休憩しており、セットのなかの飲食店や服飾店も普通に活動している様子が見て取れる。

そういう訳で、ヒーロー達のコミュイベントの時間をとることを推奨する。  
リトライを消費する休息に関してはまだ使わないでもらってもいいだろう。

(エンドチェック)

- ヒュナームからこの後立ち向かうことになる強敵の存在を知らされた。
- 休憩時間を過ごすことになった。
- グリットを1点獲得した。

### [イベント⑧: 幕間・騎士の出陣]

登場キャラクター:—

場所:—

分類:—

(状況①)

ヒーロー達が休憩している中、地球侵略サークルの面々もまた休憩をとりつつ、彼女たちの様子を眺めていた。

クワトロ

「ふむ、ヒーロー達もしっかり休めているようでござるな」

ドナテルト

「んまんまっ、クレープもおいしいでつなあ！」

ヒュナーム

「うむ、本場秋葉原、現実に存在するロマンの国。そこで出店している喫茶店の味はまさしく夢の味……」

クワトロ

「デリバリーに対応していてよかったでござるな！それはそれとして、そろそろ次のシーンを始めてもよいころにござるが、オボロ殿はいつ帰ってくるでござるかな……」

オボロ

「ふっ、俺を呼んだか？」

ヒウナーム

「龍鳳院オボロ君！ 噂をすれば影とはこのことだな！」

クワトロ

「オボロ殿、戻ってきたでござるな。どうでござるか、心の準備は？」

オボロ

「誰にもものを訊ねている？ 西クワトロ。当然、完璧に決まっているだろう。」

クワトロ

「愚問にござったか、流石はオボロ殿。では、ヒウナーム殿、皆に休憩の終わりを伝えて来てほしいでござる。オボロ殿、いや、絶望の騎士・プライドナイト。名演を期待しているでござる」

ヒウナーム

「任されたとも！ ではまたしばらく！」

オボロ

「では行くでしょう、楽しみにしているがいい。」

ドナテルト

「行ってらっしゃいでつー、んまんまっ」

クワトロ

「……ドナテロ殿、出番がないとはいえ、次のシーンが始まったらこっちに集中してくれでござるよ？」

ドナテルト

「もちろんでつよー、ぱっぱと食べきっちゃうでつー」

クワトロ

「やれやれ……では、撮影再開にござる！！」

そうして、緊張感の抜けたドナテルト、先の展開に期待を持つヒウナーム、自身の出番に準備万全なオボロ、ラストシーンまでの盛り上がりを形にするために気合を入れ直した西クワトロ。

彼らの思惑はともかく、撮影の再開はすぐそこまでやっていた。

(解説①)

休憩シーンに区切りがついたところで、再び地球侵略サークル側のシーン。彼らも休憩を満喫しつつ、気合十分な姿勢を見せる。特に次の場面から出番が控えているオボロは調子も絶好調となっている。

(エンドチェック)

- オボロが次の出番に向けて出陣した。
- 西クワトロが撮影再開の宣言をした。

[イベント⑨:現れた謎の男、その名はプライドナイト]

登場キャラクター:全員

場所:—

分類:クエリー

(解説①)

ヒュナムの休憩の終わりを告げる声が聞こえ、周囲のエキストラの人たちが雰囲気を変え、自分たちの持ち場へと戻っていく。

君たちも休憩を終え、次は何をするのか、と歩きだしたところで、君たちの前に龍鳳院オボロが姿を現した。

???

「見つけたぞ、希望の世界のヒーロー達」

彼に対して何者だと問えば、彼はそれに答えるだろう。

???

「俺は、絶望の騎士・プライドナイト。」

プライドナイト

「ジャアキング第一の配下にして、絶望の国最強の戦士」

そう名乗る彼は、いつものやれやれ系な龍鳳院オボロとは違い、その名の通りプライドの高そうな雰囲気醸し出していた。

プライドナイト

「希望の世界のヒーロー達、お前たちをこちらの世界の戦士と見込んで話がある。俺のものになれ。そして共にジャアキングを退治しようじゃないか」

その提案に君たちがなぜそんなことを言うのか問いただせば、彼はこう言うだろう。

プライドナイト

「ジャアキングが行なっている希望のエナジーの略奪。あれは短期的に見れば俺たち絶望の国の住民にとっても益になるが、今後のことを考えるのであれば、確実に悪影響だ」

「希望のエナジーを強制的に奪えばその者から希望が失われてしまう。そうなれば二度と希望のエナジーは手に入らなくなる。そうなってしまえば、絶望の国も希望の世界も滅びてしまう」

「それだけは食い止めなくてはならない。であれば、俺と共に戦ってもらった方が奴を倒すには好都合だ。」

「奴を倒した後は俺の部下として徴用しよう。そして共に希望のエナジーのバランスを見守る調停者になるんだ。」

「人々の希望も、絶望も俺たちが管理し、護り続ける。」

「どうだ？ 考えてみないか？」

プライドナイトの言葉に、君たちは更なる疑念を覚えることだろう。ジャアキングを倒すべきだという言葉は彼の真意だと伝わってくるが、彼の言葉の端々からは抑えきれない野望が伝わってくる。

ジャアキングを倒す為に彼と手を組むのは本当に正しいことなのか？

人々の希望や絶望を自分たちで管理するなんて、それが本当にヒーローのやるべきことだろうか？

そんな思いが君たちの間で交錯するだろう。この状況は西クワトロのシナリオによって描かれたものではあるが、どことなく君たちの信念を試されているように感じる。さて、君たちはどう答えるべきだろうか？

(解説①)

シナリオに用意された強敵、龍鳳院オボロが扮するプライドナイトとの邂逅、そして、彼からの要求をどう突っぱねるかのクエリーイベント。

シナリオの流れとして、プライドナイトの要求に従うことは想定されていない。

もし彼に従おうとした場合、洗脳され、彼の手駒にされてしまうだろうと伝えて欲しい。ヒーローとは人々を護る者たちではあるが、決して人々の管理者ではない。というのがシナリオ制作者の想定である。

また、この台本を作った西クワトロ自身も、ヒーローが人々を管理するようなそういう姿は解釈違いであるのが本音である。このクエリーが終わった後、そのまま次のリールイベントへと移行する。

(エンドチェック)

□ 龍鳳院オボロが扮するプライドナイトに出会った。

- プライドナイトの要求を跳ねのけた。
- グリットを1点獲得した

### [イベント⑩: 敵対、プライドナイト]

登場キャラクター: 全員

場所: —

分類: リーサル

(状況①)

君たちがプライドナイトの要求を跳ねのけると、彼はその言葉を聞き、鎧を身にまとい戦闘態勢をとる。

プライドナイト

「そうか、お前たちが自ら俺の元に降らないというのであれば、直接俺がその気にさせてやろう！！」

そう叫んだ彼は君たちにその手を向け、精神攻撃を行ってくる！！

(解説①)

というわけでリーサル判定が始まる。リーサルとは、ブラックジャケットRPGで実装された、判定に失敗した場合にリトライでのやり直しが出来ない差し迫った状況に対するイベントのことである(グリットやパワーでの振り直しは可能)

このリーサル・イベントはPCたちそれぞれに判定を行ってもらい、判定に失敗したキャラクターはペナルティを受けることになる。

今回の場合は、決戦の開始時に[憔悴3]を受け、決戦でのプライドナイトへ与えるダメージが常に2点減った状態になってしまう。

### 【リーサル判定】

判定.....生存マイナス20%、追憶マイナス20%、交渉マイナス20%

⇒プライドナイトの精神攻撃！

何故だろうか、彼のものになれば幸せに過ごせそうな気がしてくる.....。

いや、これは明らかにおかしいぞ！？

### 【成功】

幻覚を振り払う事が出来る。

### 【失敗】

幻覚がしつこく付きまとう。

決戦フェイズのバトルイベントの開始時に[憔悴3]を受け、そのバトル中にプライドナイトへ与えるダメージが常に2点減少する。

(状況②)

精神攻撃を受け、抵抗する君たちにプライドナイトは

「最初から素直になっていれば、苦しまずにすむものを……」

と見下すように言い放つ。あの精神攻撃に吞まれていれば、その言葉すら心地よく感じていたことだろう。

そんな中、君たちの元に聞き覚えのある男の声が響く。

ジャアキング

「プライドナイトよ、何を遊んでいる！！」

プライドナイト

「ジャアキングか。なに、貴方を退けたヒーロー達の様子を見に行っていただけだ。」

その言葉は絶望の国にいるジャアキングのものだ。

直接プライドナイトに話しかけているらしく、こちらの状況は把握できていないらしい。だが、そのプライドナイトの言葉を聞き、ジャアキングは君たちに話しかけてくる

ジャアキング

「なに？ そうか……ならば丁度いい、聞こえるかヒーロー共よ！！」

「希望の世界に於いて我は敗北した。だが絶望の国に於いてはどうか？」

その言葉とともに、君たちの前に紫色のゲートが現れる。

ジャアキング

「そのゲートは我が居城に繋がるゲートだ。その先で我は待ち構えている！」

「プライドナイトよ！ 貴様も遊んでいないで早く戻れ！！」

プライドナイト

「ふっ、やれやれ……そう言われてしまったのなら仕方ない」

「ヒーロー達よ、どうやら共に歩むことは出来ないようだが、せめてもの情けだ、戦いの後は俺直属の部下として優しく扱ってやろう。ハーハッハッハッハ！」

そう言ってプライドナイトはゲートの中へと消えていった。

その場に残された君たちの前には、不気味に靄がかかったゲートが残されている。この先に進めば、最終決戦が始まるだろう。

(解説②)

ヒーロー達はジャアキングの元に呼ばれ、プライドナイトも帰還していく。

リスクを受けた場合は、何かをするたびに、プライドナイトとの幻覚が付きまとして来るが、意志を失うほどではないだろう。

ジャアキングが残したゲートを通れば、最後のクエリーイベントの後に決戦フェイズに入る。覚悟を決めたり、休息を取ったりするならこのタイミングが良いと伝えておくといいかもしれない。

(エンドチェック)

- リーサル、リスクについて説明し、判定を行っていく。
- ジャアキングの介入により、プライドナイトが絶望の国に帰還する。
- ヒーロー達が覚悟を決めて、ゲートの中に歩みを進めた。

[イベント⑪: ジャアクキャッスル・玉座の前]

登場キャラクター: 全員

場所: —

分類: クエリー

(状況①)

ゲートをくぐった君たちの目の前には、紫色を基調とした豪華な洋風の城。そしてその玉座の間にて待ち構える、巨大なジャアキングと、そのそばに立つプライドナイト、そして彼らに仕えるワルインダー達の姿があった。

ジャアキング

「来たな！ 希望の世界のヒーロー達！！」

そう大声を挙げる彼は、玉座から立ち上がることもなく君たちを見据える。

「一度ばかりの敗北。よくも邪魔をしてくれたな？」

「だが、この絶望の国の中であれば私の力は最大限に発揮できる。」

そして、ジャアキングは「さらに」と続け、人々から奪った希望のエネルギーをその身に取り込み始める。

そうすると、ジャアキングの身体はさらに大きく膨れ上がり、力を増していこう。

「希望のエネルギーを取り込んだことによって、その力は更に増加する！！」

「さあ、ヒーローよ！！ 我が力の前に絶望し、そして無力に斃れるがよいわ！！」

ジャアキングはそう言い放ち、玉座から立ち上がる。そして君たちの意志の在り方を示すのを待つように睨みつけるだろう。

そしてジャアキングは君たちが言い返し、そして決め台詞を言うのを待ち続ける。決め台詞を言うまでは何かを期待したような目で立ち続けている。

君たちの決め台詞を聞いたジャアキングは大きく笑い、

「来るがいい！！ ヒーローよ！！」

と、声をあげてワルインダー達をけしかけてくる！！ 決戦の始まりだ！

(解説①)

このシナリオ最後のクエリーイベントだ。決戦の地にたどり着いたヒーロー達に、ジャアキングがその威風ある恐ろしい姿を見せる。そしてそれに怯まずにヒーロー達には決め台詞を返して欲しい、というのが西クワトロのシナリオである。

その望みどおり、ヒーロー達が決め台詞を返してくるまではジャアキングは何かを期待した雰囲気醸し出してくる。

しばらくして決め台詞を言わない場合は、小さな声で

「ほら、決め台詞！ 決め台詞を返してほしいでござる！！」

とぶっちゃけてくるだろう。

(エンドチェック)

- ヒーロー達が玉座の前でジャアキング達と対峙した。
- ジャアキングがヒーロー達の決め台詞を聞き届けた。
- グリットを1点獲得した。

## 決戦フェイズ

### [イベント⑫: 決戦! ジャアキング]

登場キャラクター: 全員

場所: ー

分類: バトル

#### ※イベント開始前に

この後の戦闘に於いて、ジャアキングのパワーとサニティはPC同士のエンパシーの変化によって変更される。詳しくは敵データで後述するが、最初の状態が陰悪・敵対でないなら、敵対側に向かう度にサニティは減少し、好意側・愛情に向かった場合、サニティは増加する。

女の子同士のイチャイチャに喜び、女の子同士の喧嘩に苦しむ。そういう感じで西クワトロの精神は大きく揺れ動いているのだ。

また、チャレンジに失敗していた場合、ペナルティやリスクが発生することを忘れないでほしい。

#### (戦闘情報)

##### ■事前情報

このバトルイベントでは、2ラウンド目開始時に[イベント⑬]が挿入される。その後は[イベント⑬]の解説にしたがって戦闘を継続すること。

##### ■エネミー一覧

※詳細は[エネミーデータ]を参照

ジャアキング

プライドナイト

ワルインダー: 4体

##### ■配置エリア

ジャアキング.....エリア4

プライドナイト.....エリア3

ワルインダー: 2体.....エリア4

ワルインダー: 2体.....エリア3

ヒーロー.....エリア1~2

##### ■戦術

エリア4にいるワルインダーは《殺到》を使ってPC達のいるエリアに侵入し、《基本攻撃》を行う。

エリア3にいるワルインダーはエリア3からエリア2にいるPCに《基本攻撃》を行う。《基本攻撃》の射程が届かない場合、《殺到》を使って移動すること。

プライドナイトは《輝け、暗黒の剣》を使い、自身の与えるダメージを強化してから、《正義を斃すは我が剣閃》でPC達を攻撃する。射程外の場合は《来ないのか？興覚めだな》でPCのいるエリアに移動しつつ、[転倒]を与えてくる。また、自身のライフが10以下になり、射程内にジャアキングがいて、尚且つジャアキングのサニティが15以下であれば《絶望の戦い》を使おうとすること。

ジャアキングはエリア4から動くことはなく、《ジャアク・アーム》でPC達を臨死状態に追い込み、《グラビトンエンド》によりドメを差そうとする。それらの攻撃パワーの射程外の場合、《絶望の世界》を使い、エリア1からダメージゾーンを使ってPCを追い込むだろう。また、ジャアキングのエネルギーが0になった直後、《悪役の意地》、もしくは《真・ネバーギブアップ》で戦闘不能になるのを無効化する。

#### ■勝敗条件

勝利条件: ジャアキング、プライドナイトの撃破

敗北条件: PCの全滅

#### ■PCが全滅してしまった場合

西クワトロは思わず、「しまったでござる！」と声をあげる。

オボロも焦りながら西クワトロにどうするか確認をとり、西クワトロは「こ、こうなっては仕方ないでござる。皆の者！撤収！！」と、声を上げ、その場から立ち去ってしまう。

ココロスちゃんは西クワトロたちを追いかけてどこかに行ってしまう、その空間にはもはや動くことの出来ないヒーロー達だけが残されてしまう。

その後、地球侵略サークルはどうなるのか、残された君たちはどうになってしまうのか。それを語るものはない。

として、シナリオは終了する。

#### [イベント⑬: 乱入者はココロスちゃん！？]

※このイベントはバトルイベントの第2ラウンド開始時に始まる。

(状況①)

あなた達が決戦を行っている、その最中に女の子のぷんすかした声が聞こえてくる。

ココロスちゃん

「もー！！ みんな、私を仲間外れにして何やってるの！！」

ジャアキングとプライドナイト  
「こ、ココロスちゃん！？！？」

その声を聞いた西クワトロと龍鳳院オボロは思わず演技も忘れて彼女の名前、ココロスちゃんを呼んでしまう。

その場に現れたココロスちゃんは、戦闘していた最中のキミたちと、その空間のどこかをむっとしながら見て、何かを察したように喋り始める。

ココロスちゃん  
「こんな女の子たちを連れ込んで撮影なんてしちゃって！こんなに沢山の人もいるのになんで私を呼ばないの！？」

クワトロ  
「ご、誤解でござるよココロスちゃん！拙者達はサークル活動の一環で、それにココロスちゃんは街に行くって言ってたにござるし！！」

ココロスちゃん  
「だからって私にだけなにも言わないなんて酷い！！」

オボロ  
「ま、まあ落ち着いてくれ、ココロスちゃん、別にわざと黙っていたわけじゃあないんだ。ココロスちゃんを主演にしたドラマはまた別の機会にじっくりとやろうと俺たちは話しあってだな」

ココロスちゃん  
「うるさいうるさい！オボロくんだってこの子たちにデートしようって言ったんでしょ！！」

プライドナイト  
「ぐっ……あ、あれはこのドラマの台本でだな……」

そんな風に釈明しようとする二人の声も聞かずに、ココロスちゃんはスタジオ裏の二人にも叫び始め、その二人の声もどこかからスピーカー越しのように聞こえてくる

ココロスちゃん  
「ヒウナームくんもドナテロくんも知ってるんだからね！色んな人に声をかけて回ってたでしょ！！」

ヒウナーム

「い、いや、いくら我々の技術が優れていると言ってもやはり人手と経験が無くては進まなかったというか……」

ドナテルト

「そ、そうでっ！ココロスちゃん！！ ぼくたち地球侵略サークルの鋼の掟に誓って活動に関係ないことはしてないでっ！」

ココロスちゃん

「嘘だ！だってこのスタジオに入ったとき、ドナテロくんのフィギュア空間の反応があったもん！」

ドナテルト

「うっ、ち、ちがうでっ！ あれはこのスタジオの拡張の為に応用してるだけでっ！」

君たちヒーローを置いてけぼりにしながら、ココロスちゃんの詰問は続き、そんな彼女に西クワトロは口を開く。

西クワトロ

「こ、ココロスちゃん悪かったでござる、ごめんなさいにござる！ どうか、どうか頭を下げるでござるから今だけは！ 今だけは！！」

ココロスちゃん

「もう知らない！！ ふんだ！！ こうなったらもうこっちの女の子たちに加勢しちゃうんだから！！」

そう宣言したココロスちゃんは、君たちの方に近づき、それぞれの手を握って声をかけてくる。

ココロスちゃん

「そういうわけだから、お願い！ みんなにキツいお仕置きを喰らわせちゃって！！」

そんな風をお願いしている様子を見た西クワトロは思わず嗚咽を漏らし、他のメンバーに話しかけ始める。

クワトロ

「ヴッ！！！」

オボロ

「西クワトロ！？ 大丈夫か！？」

クワトロ

「……ここが、覚悟を決める時にござるか。」

「オボロ殿、いや、プライドナイト、まだ戦えるでござるか？」

オボロ

「何を……いや、わかった、ジャアキング」

(※プライドナイトが戦闘不能になっている場合は以下の一行を加えること)

「だが、身体は動きそうにないな……」

ジャアキング

「ヒウナーム殿、カメラは止めてないでござるな？」

ヒウナーム

「もちろんだともジャアキング君」

ジャアキング

「ドナテロ殿、スタジオの人々を解放する準備を始めてくれにござる」

ドナテルト

「ジャアキング氏……わかったでつ！」

全員に命令をかけたジャアキングは不気味な笑い声をあげ、再び覇気を取り戻す。

ジャアキング

「グッフッフッフ、この土壇場で新たな戦士が現れるとはな！」

「だが、その程度で果たして我に勝てるかな！」

「さあ、まだ我は倒れてはおらぬぞ！ヒーロー！！」

そうしてココロスちゃんを加えたキミたちに向けられたその言葉とともに、戦闘が再開される！

(解説①)

決戦フェイズの第2ラウンド目開始時に発生するイベントだ。

突如乱入してきたココロスちゃんにより狼狽える地球侵略サークルの面々。だが、予想外の展開に再び燃え上がった西クワトロもといジャアキングは、戦闘の再開を宣言する！

このイベントの後、ココロスちゃんがPC達に対して支援を行ってくれるようになる。

このイベント前に決着が着いてしまった場合、ココロスちゃんがやってくることは無く、そのまま[イベント⑭]を経て余韻フェイズへと移っていく。

### [ココロスちゃんからの支援]

※各ラウンドの開始時に以下の①～③から任意に1つ選択する。

- ①PC達のライフを2D6点回復する。
- ②PC達のこのラウンド中の判定にプラス10%の修正を与える。
- ③敵側のこのラウンド中の判定にマイナス20%の修正を与える

(エンドチェック)

- ココロスちゃんがPC達に加勢した
- ジャアキング達が後には引けないと覚悟を決めた

### [イベント⑭: 決着!]

(状況①)

君たちは激しい戦いを制し、プライドナイトとジャアキングを打ち倒すことができた。

倒されたジャアキングは、ボロボロと身体を崩れさせ始め、しかしその状態から君たちに話しかけ始める。

ジャアキング

「クク……見事なものだ戦士たちよ、まさか我が力を打ち破るとは……」

「もはや我に戦う力は残されていない……だが、せめて貴様たちだけでも葬ってくれよう……!!」

「グォアアアアアアアアアア!!!!」

ジャアキングの叫びと共に城が大きく揺れ始め、辺りが崩れ始める。

ココロスちゃん

「きゃっ!? 本当に空間が崩れ始めてる!! 早く逃げないと危ないよっ!!」

その言葉を聞いた君たちが逃げ道を探すと、部屋の入り口辺りに入ってきたゲートが残っているのを確認できる。

君たちがそのゲートに飛び込むと、その先はスタジオ内に用意された街中の光景だった。

周りを見れば、脚本通りの日常を送っているエキストラの姿があり、ゲートそのものは完全に消滅してしまう。

君たちとともにゲートを潜り抜けたココロスちゃんは、  
「ふう、危なかったね！」  
「私はみんなにお灸を据えに行ってくるから、あなた達は帰っても大丈夫だよ！」  
「それじゃ、バイバーイ！！」  
と、嵐のようにどこかへと去っていく。

そして周りの様子から、ジャアキングを倒したのにまだ洗脳は解けていないのか、と思った矢先、君たちの手に一枚の紙が現れる。

その紙には「帰るところまでがエンディングだぞ！」と走り書きされており、その言葉通り、君たちが連れてこられた部屋があった方までもどると、その部屋の扉の一つが「出口だよ」というものになっているのを見つけるだろう。

その扉から脱出すれば、君たちを巻き込んだ撮影は終わりを迎える。

(解説①)

決戦を終え、戦いの場から離れ、日常へと戻るヒーロー達を撮影するシーン。倒されたジャアキング達は、空間の崩壊を演出し、ジャアクキヤッスルと共に取り残される。

とはいえ、その後ドナテルトやヒウナームに助けられるのを見込んだうえの行動であり、二度と出られなくなるとかそういうわけではないので安心してほしい。

ココロスちゃんに来る前に決着がついてしまった場合は、その部分だけ飛ばして進めると良いだろう。

ともあれ、PC達は無事撮影を乗り切り、後は巻き込まれた人達の救助だけ。ということで、余韻フェイズへと移っていく。

(エンドチェック)

- ジャアキングの最後の悪あがきで最終決戦のフィールドが崩壊する。
- ヒーロー達が出口から脱出し、撮影が終了する。

## 余韻フェイズ

[イベント⑮:解放された人々]

(状況①)

君たちが出口と書かれた扉を抜けると、そこはこのスタジオの責任者がいる部屋で、彼は洗脳が解けた衝撃で気絶しているようだった。

彼の容態を確かめるために声をかけると、彼は目を覚まし、君たちを助けに来てくれたヒーローだと理解して、助かったよ、とお礼を伝えてくる。

彼はその直後、はっとした様子で、スタジオのメンバーの無事を確認しようと立ち上がる。

君たちが彼に無理をさせないように共にスタジオの様子を確認に行けば、スタジオ内の人員は全員無事に洗脳から解放されており、同時に、地球侵略サークルが残したスタジオ使用の謝辞と使用料金が入った封筒を見つけ、彼らが完全にこのスタジオから立ち去ってしまったことを知ることだろう。

スタジオの人たちは洗脳中、エキストラとして扱われたりしていたことを覚えており、めちゃくちゃな扱いなんかはされなかったものの、彼らの好きにさせられていたことに憤りを覚えていたようだった。

ともかく、全員の無事は確認したものの、念のため呼び出されたG6の救護班によってスタジオの人たちは医療施設へと搬送されることになる。

そんな中、責任者の人は君たちに改めてお礼を伝えに来る。

そして、お礼を伝えた後、君たちに良かったらちゃんとしたドラマの撮影を受けてみないか、と勧誘してくる。

それを受け入れれば彼は乗り気になり、ごたごたが終わった後、またその話をしようと、嬉しそうに伝えてくる。

断った場合でも、そりゃそうか、と潔く彼は諦めるだろう。

ともあれ、君たちが巻き込まれた、地球侵略サークルによる迷惑な事件は終わりを迎えるのであった。

## 【イベント⑩：後日譚】

※このイベントは、エンディングでPC達がロールプレイするときのための、このシナリオの結果、何が起こったかを描いたものである。

### （状況①）

数週間後、キミたちはG6から、今回の事件に巻き込まれた二六八スタジオが無事に活動を再開できたことを知らされる。後遺症なども特になく、遅れた仕事を取り返すために心機一転で頑張っているようだ。

地球侵略サークルから渡されたお金は出所が分からないことからG6が押収して、代わりにG6から迷惑料を支払ったとのことらしい。

肝心の地球侵略サークルそのものの逃げた足取りは掴めてはいないが、彼らによる被害もこの数週間発生していないことから、もうしばらくは関係修復や作品の鑑賞に忙しいのかもしれない。

今回の事件に巻き込まれた君たちの間にも、以前との関係の変化が訪れているかもしれないが、とにかく、君たちはまた、ヒーローとしての日常を送ることになるだろう。

※追加の演出を行いたい場合は、適宜ロールプレイを行ってほしい。

これにて、「ヒロイン二人で撮影を終えるまで帰れないスタジオ」は終了となる。

## [エネミーデータ]

### [ジャアキング]

#### 能力値／技能(成功率)

【肉体】25 白兵52% 生存33%

【精神】59 意志66% 追憶44%

【環境】19 科学77% 交渉51%

#### エネルギー

【ライフ】30 ※チャレンジ失敗時:50

【サニティ】25

※各PCのエンパシー悪化1段階につき3点低下、良好化1段階につき3点増加

【クレジット】31

#### 移動適正:地上

#### パワー

### 《ジャアク・アーム》

属性:攻撃、装備

判定:白兵77%

タイミング:行動

射程:1

目標:1

代償:ターン10

効果:[2D6+4]点のダメージを目標に与える。このパワーは臨死状態のキャラクタを目標にできない。

### 《グラビトンエンド》

属性:攻撃

判定:—

タイミング: 行動

射程: 1

目標: 2

代償: ターン12

効果: 目標は〈知覚〉判定を行なう。この判定に失敗したキャラクターは、3D6点のダメージを受ける。このパワーは第2ラウンド以降にのみ使用でき、臨死状態のキャラクターのみ目標にできる。

《絶望の世界》

属性: 攻撃

判定: —

タイミング: 行動

射程: 3

目標: 1エリア

代償: ターン6

効果: 目標のエリアに「ダメージゾーン4」を追加する。このパワーのダメージゾーンがライフを減らすとき、同じだけサニティも減らさなくてはならない。この効果はイベント終了まで継続する。

《悪役の意地》

属性: 回復

判定: 意志88%

タイミング: 特殊

射程: —

目標: 自信

代償: サニティ15

効果: キミのいずれかのエネルギーが0以下になった直後に使用できる。キミの0以下になっているエネルギーを1まで回復する。このパワーは1イベントに1回まで使用できる。このパワーはキミのサニティが16点以上の状態でなければ使用できない。

《真・ネバーギブアップ》

属性: 回復

判定: —

タイミング: 特殊

射程: —

目標: 自身

代償: なし

効果: キミのいずれかのエネルギーが0点以下になった直後に使用できる。キミの全てのエネルギーを20に変更する。このパワーは1イベントに1回まで使用できる。このパワーはキミのサニティが15点以下の状態でなければ使用できない。

[プライドナイト]

能力値／技能(成功率)

【肉体】35 白兵80% 運動40%

【精神】35 霊能80% 意志55%

【環境】20 科学60% 交渉40%

### エネルギー

【ライフ】30

【サニティ】30

【クレジット】10

### 移動適正：地上

### パワー

《輝け、暗黒の剣(シャイニング・ダークネス)》

属性：強化、装備

判定：—

タイミング：行動

射程：—

目標：自身

代償：ターン6

キミが与えるダメージに+4の修正を与える。この効果はイベント終了時まで継続する。このパワーが破壊状態になったとき、この効果は失われる。

《正義を斃すは我が剣閃(ターミネイトスラッシュ)》

属性：攻撃

判定：白兵100%

タイミング：行動

射程：1

目標：1

代償：ターン10

効果：目標は〈運動〉判定を行う。この判定に失敗したキャラクターは2D6点のダメージを受ける。

《来ないのか？興覚めだな(フラッシュステイ)》

属性：移動、妨害

判定：—

タイミング：特殊

射程：0

目標：1エリア

代償：サニティ6

効果：キミのターン開始時に使用できる。キミは戦場内の任意のエリア(隠密エリア除く)に移動する。その後、同じエリアにいる目標(キミを除く)に[転倒]を与える。このパワーは1ラウンドに1回まで使用できる

《絶望の戦い(バトル・オブ・ディスペア)》

属性：回復

判定：交渉40%

タイミング: 特殊

射程: 1

目標: 1

代償: なし

効果: キミのターン開始時に使用できる。目標のサニティを全快する。キミは即座に[戦闘不能]になる。

### [ワルインダー]

能力値/技能(成功率)

【肉体】14 白兵40%

【精神】8 意志30%

【環境】3

エネルギー

【ライフ】4

【サニティ】6

【クレジット】1

移動適正: 地上

パワー

《殺到》

属性: 移動

判定: —

タイミング: 特殊

射程: —

目標: 自身

代償: サニティ5

効果: キミのターン開始時に使用できる。キミは戦場内の任意のエリア(隠密エリアは除く)に移動する。このパワーは1ラウンドに1回まで使用できる。